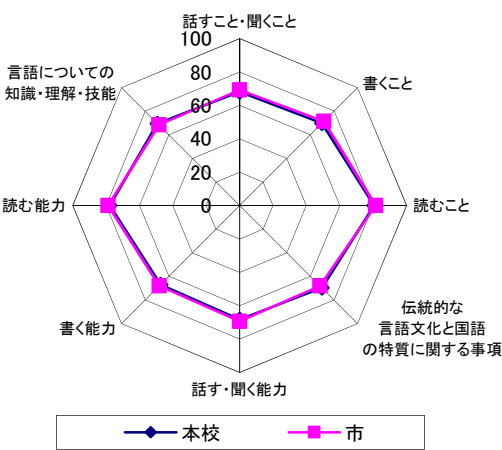


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.2	69.3	73.4
	書くこと	69.8	71.3	74.6
	読むこと	80.7	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.2	69.3	73.4
	書く能力	66.8	68.1	71.7
	読む能力	77.8	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	69.6	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

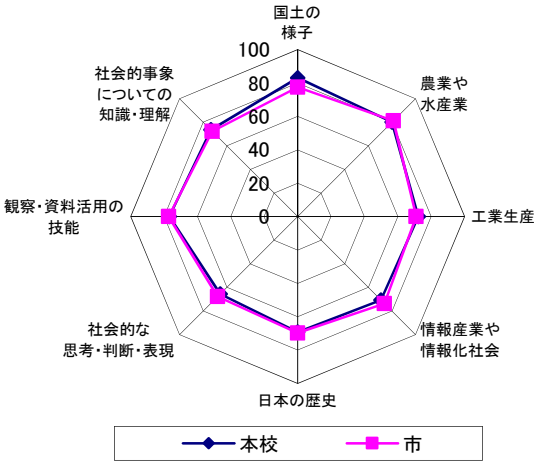
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問いは、市の平均と同程度だった。 ●内容を正しく理解しながらメモし、問いに対する答えを記述して答える問題は、正答率が30.6%で低かった。	・授業中や日常生活の中で、話を最後まで理解しながら聞く指導を引き続き行っていく。 ・話の要点を要約しながら聞いたり、必要な事柄はメモを取ったりすることが習慣化するように、引き続き重点的に指導していく。
書くこと	○指定された長さで文章を書く問題、自分の意見を明らかにして文章を書く問題、理由や事例を挙げて文章を書く問題は、2ポイント程度市の平均を上回った。 ●2段落構成で文章を書く問題は、市の平均を8ポイント程度下回った。 ●グラフを読み取り、文章に適切に書き表す問いの正答率は52.9%で低かった。	・国語に限らず他教科でも、資料やグラフを正しく読み取る力を身に付けさせたい。 ・作文用紙の正しい使い方や段落構成で文章を書く力は、個人差が大きい。テーマを設定し、段落構成を意識しながら文章が書けるように指導していく。
読むこと	○物語の内容を理解し、登場人物の心情や場面の描写を読み取る問いの正答率は、市の平均と同程度だった。 ●説明文の内容を的確に理解しなければ答えられない問いの正答率が67.1%と低かった。	・単元の内容に沿った図書資料を用意するなどして、様々な文章に慣れ親しむことで、読解力を向上させていく。 ・根拠となる文章にサイドラインを引く活動を行うことで、文章に即して内容を読み取ることができるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みは正答率が高く、市の平均と同程度だった。 ●漢字の書きでは、「移住」の正答率は47.1%「限らず」56.5%だった。 ●謙譲語の使い方では正答率が38.8%、尊敬語の正答率は15.3%だった。	・漢字の読み書きについては、繰り返しの学習やミニテストを行いながら身に付けさせたい。 ・学習した漢字が文章の中で正しく使用できるよう指導する。また、語彙力がないことが地域学校園での課題になっているので辞書を引く習慣をつけさせたい。 ・尊敬語や謙譲語については、日常から場面に応じた使い分けができるよう指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	83.2	77.5	74.0
	農業や水産業	80.0	81.1	73.7
	工業生産	72.4	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	70.6	73.7	63.2
	日本の歴史	69.3	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.6	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	76.9	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	73.6	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

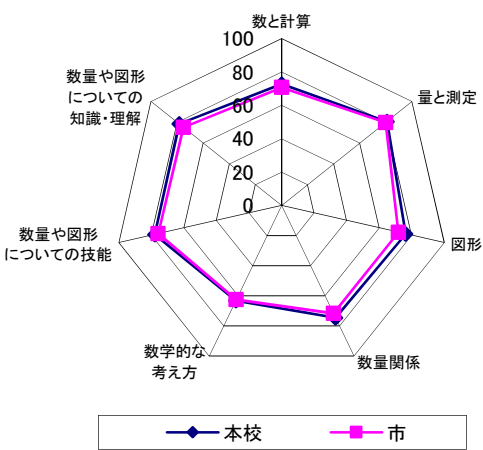
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○正答率が83.2%と、市の平均を5.7ポイント上回った。 ●ほとんどの項目で市の平均を上回ったが、日本の気候の様子について、説明に当てはまる雨温図と都市の位置を判断する問題の正答率が市の平均を1.2ポイント下回った。	・復習用のプリントや地図等を準備し、家庭学習等で活用しさらに定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」の単元において、日本と世界のつながりを学習する際に、日本の気候と世界の国々の気候について雨温図等の資料をもとにそれぞれの特徴を捉えられるようにする。
農業や水産業	●正答率が80.0%で、市の平均を1.1ポイント下回った。 ○資料を読み取る問題の正答率は全て市の平均を上回った。 ●日本の食糧生産が抱える課題について、資料をもとに考える問題の正答率が、市の平均を13.8ポイント下回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させるとともに、家庭学習を中心に教材を活用し、定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」や「世界の未来や日本の役割」の単元において、世界とのつながりを学習する際に、日本の農業の特徴を再確認し、定着を図る。
工業生産	○正答率が72.4%で、市の平均を1.3ポイント上回った。 ●工業地帯の立地について資料を読み取り考える問題の正答率が、市の平均を1.3ポイント下回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させるとともに、家庭学習を中心に教材を活用し、定着を図る。 ・資料から読み取れる内容を整理させ、どんなことが考えられるか話し合うことを通して、思考力の向上を図る。
情報産業や情報化社会	●正答率が70.6%と、市の平均を3.1ポイント下回った。 ●医療現場での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える問題の正答率が、市の平均を5.5ポイント下回った。	・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、授業のみならず、日常生活においても適宜指導する。 ・復習用の教材を活用し、学習内容を再確認させる。また、各教科との関連を図りつつ、日常における情報産業や情報化社会についての理解を深め、定着を図る。
日本の歴史	○正答率が69.3%で、市の平均と同程度となった。 ●大和朝廷について資料をもとに考え表現する問題の正答率が27.1%と、正答率が低かった。 ●明治時代や大正時代の出来事への理解を問う問題について、全ての問題で市の平均を下回った。	・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再確認させる。 ・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.8	70.8	65.9
	量と測定	80.8	79.9	77.0
	図形	76.3	71.8	74.6
	数量関係	74.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	63.2	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.9	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	78.5	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

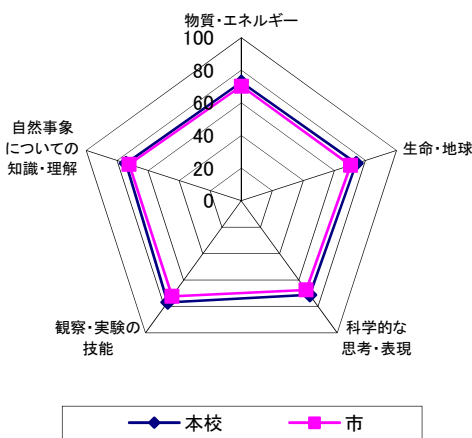
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率が72.8%で、市の平均より2.0ポイント高かった。 ●線分図と式を関連させて、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率が市の平均より5ポイント低かった。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。
量と測定	○正答率が80.8%で、市の平均とほぼ同じであった。 ●ひし形の面積を求める問題や直方体を組み合わせた形の体積を求める問題の正答率が低かった。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。 ・教科書やドリルを用いて、自主学習などを通して苦手な問題を繰り返しやり直すよう指導する。
図形	○正答率が76.3%で、市の平均より4.5ポイント高かった。 ○対称な図形についての特徴を問う問題の正答率が高く、線対称な図形の対称の軸についての問題では、市の平均を23ポイント上回った。 ●正多角形の内角の和、合同な図形の作図、立体の展開図から考える問いでは、全ての問題で市の平均を下回った。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。 ・図をもとに角の大きさや体積の求め方を説明するように指導し、それぞれの方法を説明し合う活動を通して思考力の向上を図る。
数量関係	○正答率が74.6%で、市の平均より2.9ポイント高かった。 ○比例の関係をXやYを使って表す問題や文字を使った式が表す場面を選ぶ問題の正答率が高かった。 ●もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを説明する問題の正答率が35.9%となり、特に低い正答率となった。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。 ・問題文をよく読み、どの数値が何を表しているのかをしっかりと確認させるとともに、線分図や図形を用いて、自身の考えを整理しながら問題を解けるように指導する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.7	70.3	69.0
	生命・地球	74.0	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	71.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	76.9	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	74.3	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○正答率が72.7%で市の平均より2.3ポイント高かった。 ○物の燃え方についての問題の正答率が市の平均より約6ポイント高かった。 ○ふりこのきまりについての問題の正答率が市の平均より約9ポイント高かった。 ●物のとけ方の正答率が市の平均より約7ポイント低かった。	・苦手な分野を確認させ、復習用プリント等を活用し、補充的学習ができるようにする。 ・そろえる条件と変える条件を意識して実験・観察に取り組むように指導する。実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるように、科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。
生命・地球	○正答率が74.0%で市の平均より3.6ポイント高かった。 ○「植物のつくりとはたらき」についての問題の正答率が市の平均より約7ポイント高かった。 ○「生物と環境」についての問題の正答率が市の平均より約6ポイント高かった。 ●「動物の体のつくりとはたらき」についての問題の正答率が市の平均より約4ポイント低かった。 特に心臓の動きを表す「はく動」の理解を問う内容の正答率は14.1%であった。	・苦手な分野を確認させ、復習用プリント等を活用し、補充的学習ができるようにする。 ・主要な消化器官・循環器官の位置や働きを復習する。 ・インターネットや書籍などを活用し、調べ学習を通して理解できるようにさせる。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	子どもたちにとって高い課題を設定し、グループ活動や学級全体で協働的な話し合いをもつ問題解決的な授業づくりを進めている。	学校全体で「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的回答した児童の割合は、約80%である。3～6年生では、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる」は約70%で、市とほぼ同じである。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	算数では、単元に応じて、少人数学習、習熟度別学習、TT体制で授業を行っている。 火曜日と金曜日の朝の学習の時間には、担任を持っていない教員も各学年で個別指導を行い、国語と算数の学力向上を図っている。	6年生の算数の基礎問題の正答率は81.6%で、市を3.2ポイント上回っている。国語の基礎問題は、市の正答率とほぼ同じである。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間のめやすや家庭学習の内容を提示している。 自主学習帳の約束として、日付と取り組んだ時間、振り返りを記入し、保護者からサインなどをもらうことを学校で統一している。	「宿題はきちんとやっていますか(1, 2年)」 「宿題はきちんとやり、期限までに提出している(3～6年)」に肯定的回答した児童は93%である。 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」では、6年生は市を6.3ポイント上回っているが、3, 4, 5年生は55%で、4, 5年生は市を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国、県、市の調査において、話し合い活動に関わる項目に肯定的に回答した児童の割合は約80%である。課題解決に向けて、話し合い活動に取り組む意欲は高まってきているので、学力の全体的な底上げをねらうために、各教科各領域でグループやペアの話し合い活動を意図的に繰り返し設定していく。そのときに、相手意識を重視し、話し手の意図や目的を考えながら聞く活動になるように助言する。全体での話し合いでは、教師が子どもたちの意見をつなぎ、深い学びとなるように努める。

・国、県、市の調査において、宿題への取り組みに関わる項目では、肯定的に回答した児童の割合が90%以上である。6年生は、復習やテストのやり直しに関わる項目で、肯定割合が市を上回り、家庭学習の時間も市の平均より長い。これらのことが、学習内容の定着につながっていると考えられる。4, 5年生の復習に関わる項目では、市よりやや上回っているが、テストのやり直しについてはかなり下回っている。また、計画的に家庭学習に取り組んでいる児童が55%程度である。次年度は、家庭学習カードなどを用いて、計画的に家庭学習に取り組む指導を充実させる。